

## 福岡県におけるイグサ品種「いそなみ」の生育特性

中原隆夫・森藤信治・住吉 強・\*井上恵子  
(福岡県農業総合試験場筑後分場, \*福岡県農業総合試験場)

Takao NAKAHARA, Nobuharu MORIFUJI, Tsuyoshi SUMIYOSHI and Keiko INOUE: Growth Habit of Mat-Rush Variety 'ISONAMI' in Fukuoka Prefecture

近年住宅の洋風化や、低経済成長への移行などにより畳の需要は低迷し、イグサ栽培農家を取り巻く状況には厳しいものがある。この中で安定した経営を維持していくためには、生産コストの低減や高品質のイグサを栽培していくことが要求される。福岡県においては良質量表用の原料となる 120cm以上の茎の収量が多い品種の試験を行った結果、いそなみがすぐれていることが明らかになり、優良品種として普及の拡大を図っている。そこで、著者らはいそなみの適正栽培法を確立するため、生育特性の把握を行うとともに収量および品質の面からみた刈取適期について検討を行った。

## 1. 試験方法

品種はいそなみ、対照品種としてあさなぎを用いた。1982年12月10日に植付け、施肥および栽培管理は普通刈標準栽培法に従った。刈取りは早刈り(7月7日)、適期刈り(7月14日)、遅刈り(7月21日)の3時期とした。「長い」出芽期に出芽した茎の伸び方、収穫時の生育、収量および品質について調査した。

## 2. 結果および考察

1) 「長い」出芽期出芽茎の1日当たりの茎長の伸び

いずれの出芽日のものも、1日当たりの伸びはいそなみがあさなぎより良好であった。また、出芽後の1日当たりの伸びは、各出芽日とも1週間目から2週間目にかけて最も大きく、その後は小さくなった。特に、5月24日出芽茎は出芽後2週間目に1日当たり約4.2cm伸びた(第1図)。

2) 刈取時の生育および収量 第1表に示すように刈取り時の茎長は各刈取期ともいそなみがあさなぎを上回り、

その差は適期刈りで最も大きく、2.8cmであった。また、120cm以上の茎数、乾茎重および乾茎重率は早刈りでは品種間差は小さかったが、適期刈りおよび遅刈りではいそなみがあさなぎを大幅に上回った。さらに、いそなみは早刈りから普通刈りにかけて茎長は約14cm、120cm以上の茎数および乾茎重はそれぞれ29本、44kg/aと大幅に増加したが、適期刈りから遅刈りにかけての増え方は緩やかであった。

第1表 刈取時の生育および収量

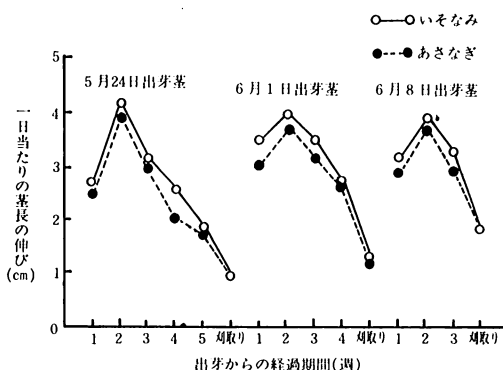
試験区	茎長 (cm)	1株当たり茎数(本)		乾茎重(kg/a)		120cm以上 茎重率 (%)
		120cm以上	総計	120cm以上	総計	
いそなみ早刈り	126.5	11	79	18.6	96.4	19.3
あさなぎ早刈り	125.9	10	86	17.7	105.9	16.7
いそなみ適期刈り	140.7	40	104	62.6	132.0	47.4
あさなぎ適期刈り	137.9	32	90	49.4	134.5	36.7
いそなみ遅刈り	145.4	53	122	79.2	153.9	51.5
あさなぎ遅刈り	143.5	45	114	69.3	145.4	47.7

3) 120cm以上の茎の性状および品質評価 第2表に示すように1m茎重はあさなぎより重く、特に早刈り、適期刈りで重かった。先枯れは早刈り、適期刈りでは認められず、遅刈りであさなぎよりやや多かった。品質評価は早刈りでよく、適期刈りでやや変色茎がみられたが、許容範囲内であった。しかし、遅刈りでは変色茎や先枯れが増え、品質低下が著しかった。

第2表 120cm以上の茎の性状および品質評価

試験区	茎の太さ (mm)	1m茎重 (g/100本)	先枯れ歩合 (%)	品質評価
いそなみ早刈り	1.46	38.8	0	色調良
あさなぎ早刈り	1.49	36.9	0	先端の染土付着不良
いそなみ適期刈り	1.36	38.5	0	変色茎やや多
あさなぎ適期刈り	1.36	38.0	0	並
いそなみ遅刈り	1.29	37.0	0.3	変色茎、先枯れ多
あさなぎ遅刈り	1.36	36.9	0.2	変色茎やや多

以上の結果より、いそなみは「長い」出芽後の伸びが大きく、早刈りから適期刈りにかけて急速に120cm以上の茎が増え、品質もよいが、遅刈りになると急激に品質が低下することが明らかになった。このことから、品質および収量の両面からみたいそなみの刈取適期幅は小さく、7月10~15日ごろが妥当ではないかと考えられる。



第1図 「長い」出芽期出芽茎の一日当たりの茎長の伸び